



東京 2025 世界陸上・東京 2025 デフリンピックについて

1 世界陸上・デフリンピックの基本情報

世界陸上競技選手権大会	デフリンピック
●ワールドアスレティックス（WA）が主催。 2年毎に開催 ●第1回は、1983年にフィンランドのヘルシンキで開催 ●2025年の大会は、20回目の大会 ●世界で約10億人が視聴 3,000名規模のボランティアが参加 ●東京での開催は1991年大会以来。 日本での開催は2007年大阪大会を含めて通算3回目	●国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）が主催し、 4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした 国際総合スポーツ競技大会 ●第1回は、1924年にフランスのパリで開催 ●2025年の大会は、100周年の記念すべき大会。日 本では初めての開催 ●手話言語のほか、スタートランプや旗などを使 った視覚による情報保障が特徴

2 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの概要

	東京2025世界陸上	東京2025デフリンピック
会期	令和7年9月13日（土）～9月21日（日）	令和7年11月15日（土）～26日（水）
種目	49種目	21競技（陸上や水泳など）
選手	約210か国・地域、約2000人	70～80か国・地域、約3000人
会場	東京・国立競技場（マラソン、競歩は東京都内での実施を予定）	主に都内会場（サッカーは福島県、自転車は静岡県で実施）
招致	（公財）日本陸上競技連盟	（一財）全日本ろうあ連盟
運営	（一財）東京2025世界陸上財団	（一財）全日本ろうあ連盟 東京都 （公財）東京都スポーツ文化事業団

3 デフリンピック啓発イベントへの対応

- （1）全国キャラバンカー出発セレモニー
6月15日（日）盛岡タカヤアリーナにて開催
主催：（一財）全日本ろうあ連盟
- （2）啓発イベント
7月25日（金）全国キャラバンカーが県庁到着
主催：（一社）岩手県聴覚障害者協会



4 本県の対応について（検討・実施状況）

「世界陸上・デフリンピック」を通じた被災地連携として、東京都と調整を進めながら事業の協力を行う。

世界陸上	① 子供の競技観戦 被災地（岩手県・宮城県・福島県・石川県）の子供たちに観戦機会を提供するもの。 小学生から高校生までの児童・生徒、引率者（各県35名程度）が対象。観戦招待に係る交通費、宿泊費、観戦チケット代等は東京都が負担する。 【観戦日程】令和7年9月13日（土）～9月14日（日） 【参加者（予定）】いわてスーパーキッズU12 小学6年生の児童26名、引率者5名 ② 被災地PRブース 大会期間中に、明治公園において被災地PRブースを設置する。 観光・工芸品宣伝や世界遺産パネル展示、チラシ配布を予定。
デフリンピック	① 子供の競技観戦 被災地（岩手県・宮城県・福島県・石川県）の子供たちに観戦機会を提供するもの。 小学生から高校生までの児童・生徒、引率者（各県35名程度）が対象。観戦招待に係る交通費、宿泊費、観戦チケット代等は東京都が負担する。 【観戦日程（予定）】令和7年11月15日（土）～11月16日（日） 【参加者（予定）】盛岡聴覚支援学校の生徒で調整中 ② 被災地PRブース 大会期間中に、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて被災地PRブースを設置する。 観光・工芸品宣伝や世界遺産パネル展示、チラシ配布を予定。

5 本県ゆかりの日本代表選手内定状況

世界陸上	長沼元（スズキ／気仙中→高田高校→国士舘大学卒業／やり投） 大上直起（青森県庁／久慈中→久慈東高校→仙台大学→仙台大学院卒業／4×100mR）
デフリンピック	佐々木琢磨（仙台大学職員／八戸聾学校→盛岡聴覚支援学校→仙台大学卒業／陸上競技） 中村大地（筑波技術大学在学／盛岡聴覚支援学校卒業／陸上競技） 今野桃果（デサントアパレル東北／盛岡聴覚支援学校卒業／陸上競技） 水嶋貴一（県南広域振興局／矢巾中→盛岡聴覚支援学校卒業／ハンドボール） 高山和也（東北学院大学在学／雫石中→岩手高校卒業／バスケットボール） 戸羽康之（株式会社戸建（陸前高田市）／気仙沼市在住／ボウリング）